

恥でも恩恵でもない

「命を脅かす引き下げは反対!」。貧困問題に取り組む人たちがつくる「STOP!生活保護基準引き下げ」アクションは6日、厚生労働省前で生活保護基準引き下げを阻止しようと行動しました。その後、国会へデモ行進しました。

権利

生活保護 声あげなきや



生活保護基準の引き下げに反対しデモ行進する人たち=6日、東京都千代田区

引き下げ阻止 国会デモ行進

呼びかけ人の一人、宇都宮健児弁護士は「生活保護は憲法25条

を具体化した制度で、恥でも恩恵を受けるものでもなく、権利だ」と強調。首都圏青年ユニオンの河添誠青年非正規労働センター事務

局長は「生活保護基準引き下げは、生活保護利用者だけの問題ではない。最低賃金など日本に暮らす全ての人の生活保障基準が切り下

げられるということだ」と述べました。さいたま市から参加した末吉俊一さん(48)は「ほくら当事者の実態を見ずに、過去最大

の引き下げを自公政権はしようとしているのは許せない」と語気を強めました。千葉県内から妻(42)と長女(2)と参加し

た石井真一さん(39)は「いまでもぎりぎり。自分たち親が食べる物はすでに切り詰めている。これ以上削減されたら、子どもの食事まで減らさなければならぬ」と訴えました。

「いまの生活保護切り下げの動きは憲法の理念に反する」と話すのは、夜勤明けで参加した介護職の男性(28)です。「いま、声を上げないと、社会保障全般が切り下げられてしまう」

国会前では、日本共産党と社民党の議員が

参加者らを激励。日本共産党からは、穀田恵史、田村智子両参院議員がエールの交換をしました。衆院議員と大門実紀史、田村智子両参院議員がエールの交換をしました。